報　道　発　表　資　料
平成21年9月30日15時30分
気　　象　　庁

2009年9月30日02時48分ころの南太平洋の地震について(第３報)

地震の概要と津波注意報の発表状況

発生日時： 9月30日02時48分ころ（日本時間）

マグニチュード： 8.3

場所および深さ： サモア諸島付近（南緯15.3°、西経171.0°）
（震源・マグニチュードは太平洋津波警報センター(PTWC)による）

発震機構等： 北東－南西方向に張力軸をもつ正断層型（気象庁CMT解）

津波注意報： 09時00分に発表した津波注意報は、15時00分に全て解除しました。

○ 国内の津波の観測状況（15時00分現在、最大波の観測時刻と高さ）

八戸	14時33分	0.1m	大船渡	14時50分	0.1m
石巻市鮎川	14時19分	0.2m	伊豆大島岡田	14時41分	微弱
三宅島阿古	14時31分	0.1m	八丈島神湊	13時46分	0.1m
父島二見	14時40分	0.1m	室戸市室戸岬	14時02分	微弱

○ 海外の津波の観測状況（14時00分現在）

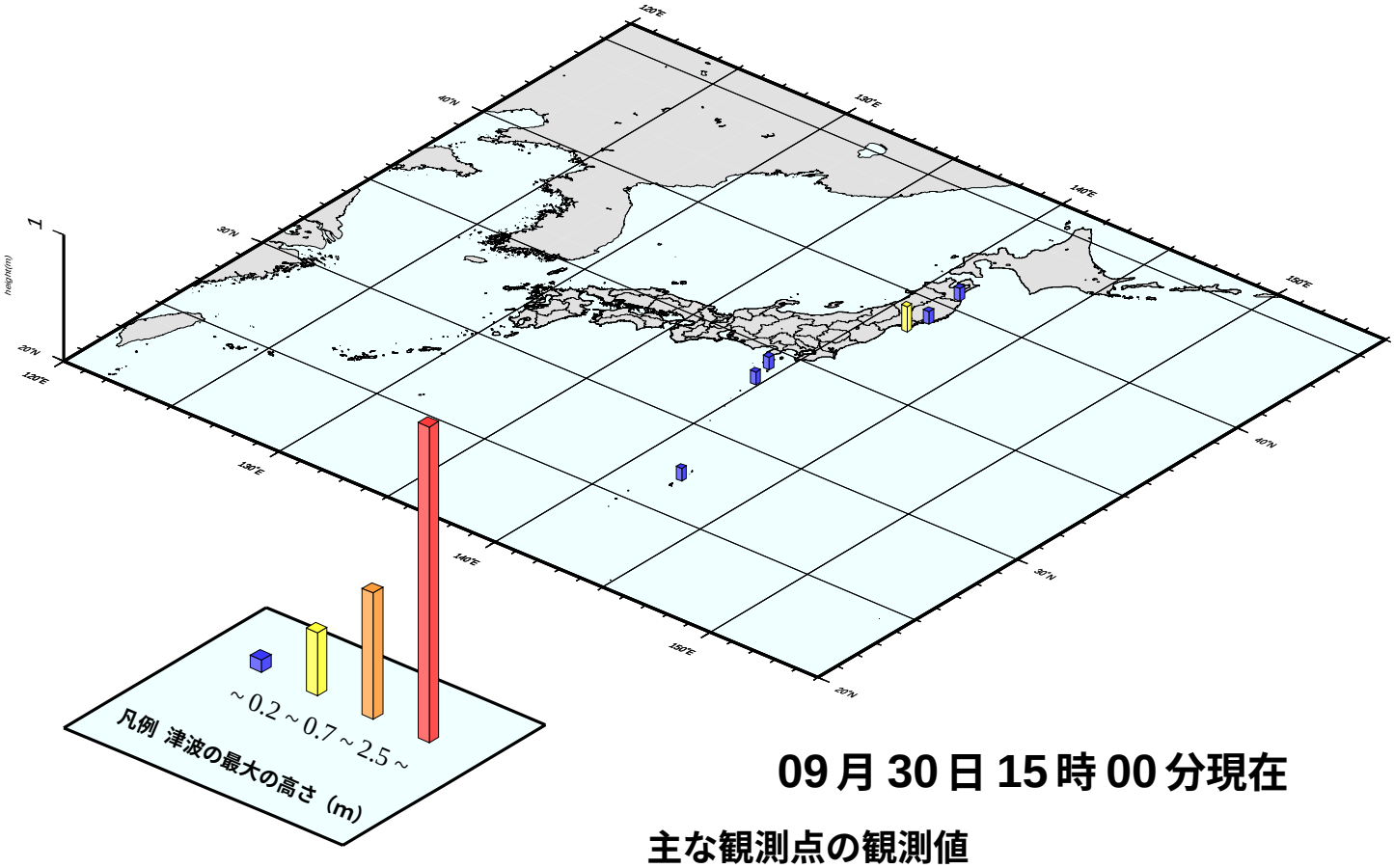
パゴパゴ	03時12分	1.6m	アピア	03時32分	0.7m
ラロトンガ	04時51分	0.5m	ヌクアロファ	05時07分	0.1m
ベンリン島	06時02分	0.1m	ポートビラ	07時39分	0.2m
ホノルル	09時31分	0.2m	ウェーク	09時33分	微弱
ヒロ	09時55分	0.2m	カフルイ	10時13分	0.4m
ミッドウェー	10時20分	0.2m	ポートケンブラ	11時08分	微弱
イースター島	12時42分	0.3m			

○ 防災上の留意事項

北海道から九州の太平洋沿岸、南西諸島、伊豆・小笠原諸島では、今後も、しばらくは現在と同程度の海面変動が続くと予想されますので、海岸での作業や海のレジャーなどは十分注意してください。

本件に関する問い合わせ先：地震火山部地震津波監視課　03-3212-8341(内線4542)

津波観測状況



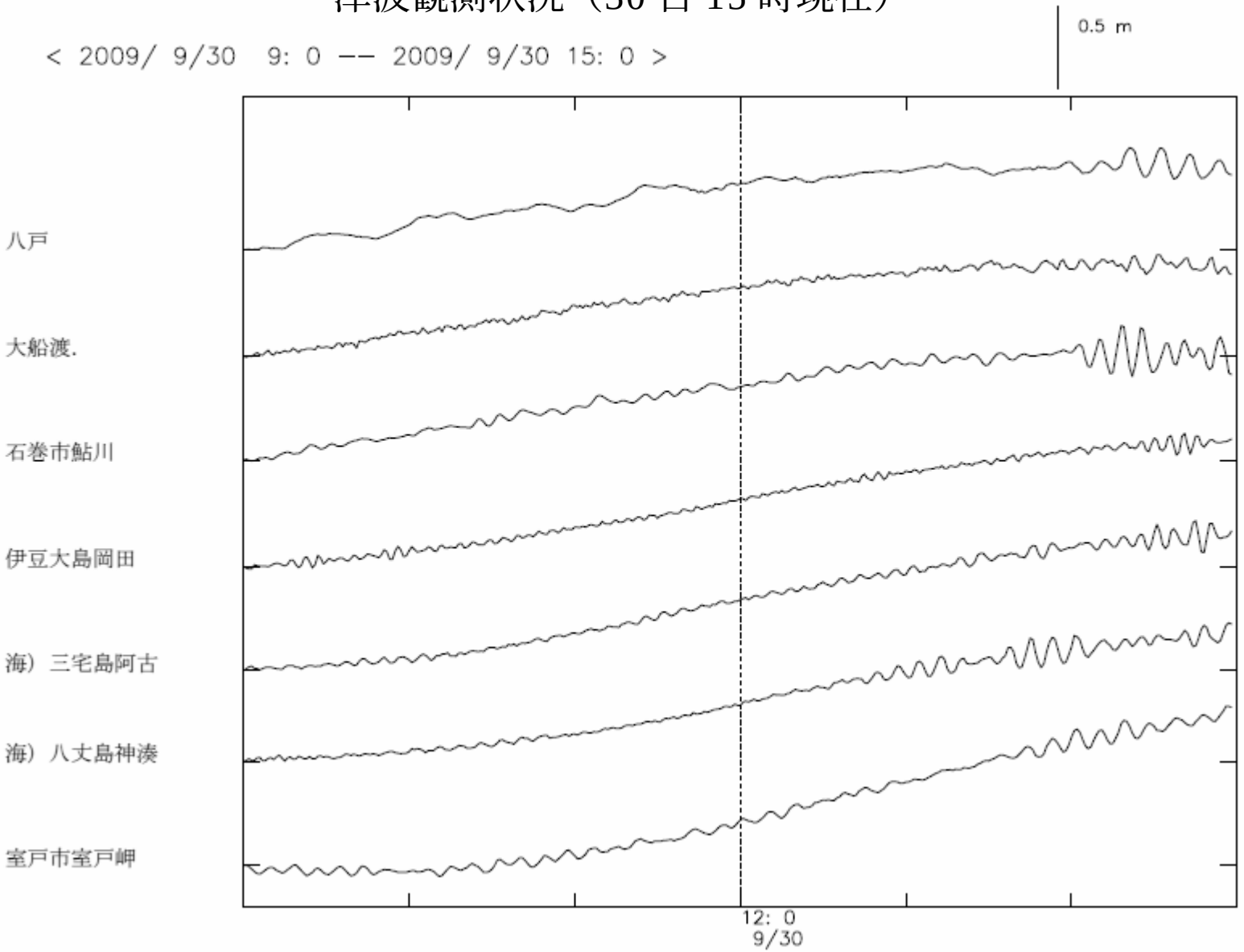
09月30日15時00分現在

主な観測点の観測値

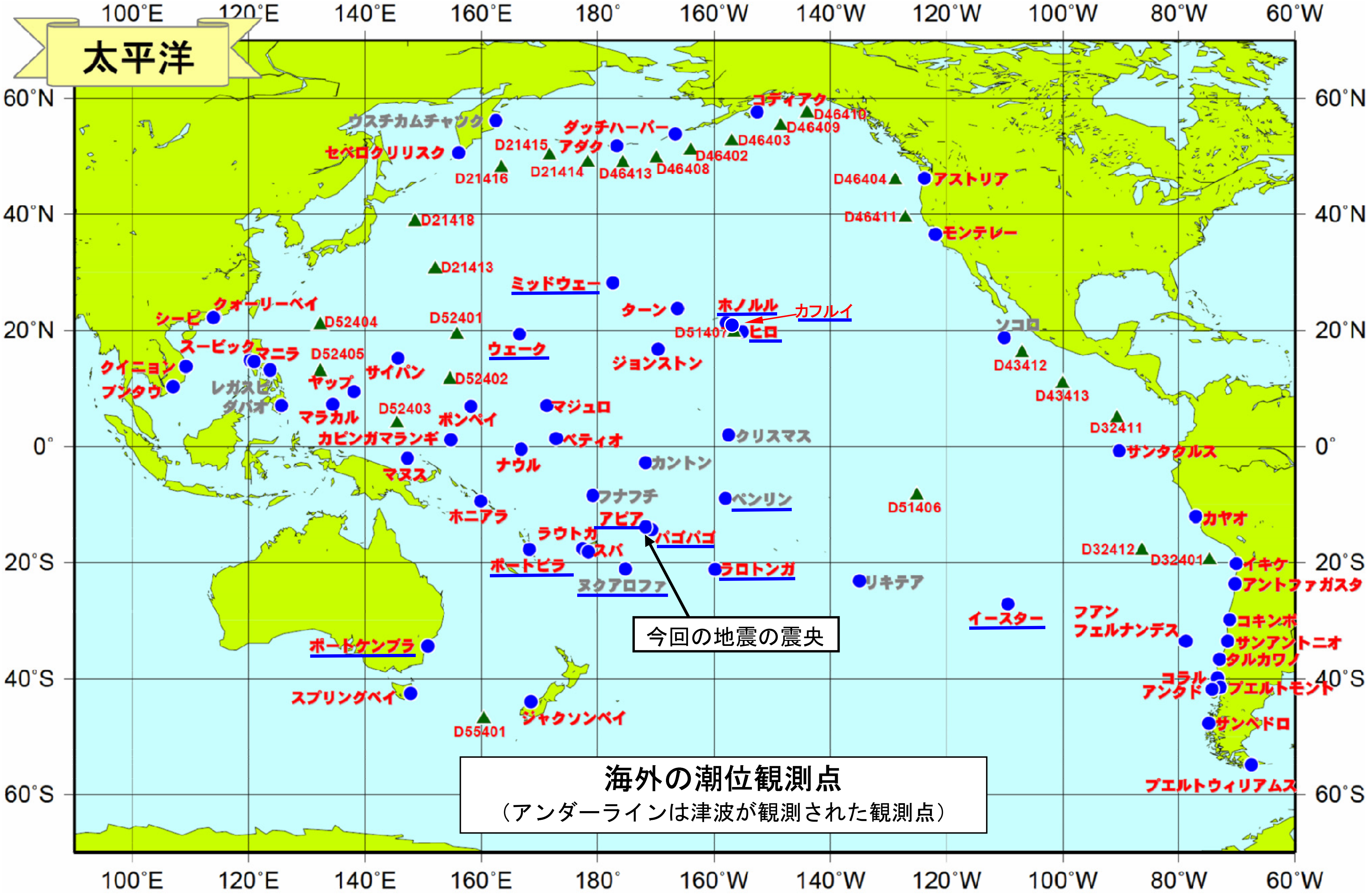
	第一波	最大波	
石巻市鮎川	（第一波識別不能）	30日 14時 19分	0.2m
八戸	（第一波識別不能）	30日 14時 33分	0.1m
大船渡	（第一波識別不能）	30日 14時 50分	0.1m
三宅島阿古	（第一波識別不能）	30日 14時 31分	0.1m
八丈島神湊	（第一波識別不能）	30日 13時 46分	0.1m
父島二見	（第一波識別不能）	30日 14時 40分	0.1m
伊豆大島岡田	（第一波識別不能）	30日 14時 41分	微弱
室戸市室戸岬	（第一波識別不能）	30日 14時 02分	微弱

気象庁作成

2009年9月30日 02時48分ころの南太平洋の地震
津波観測状況（30日15時現在）

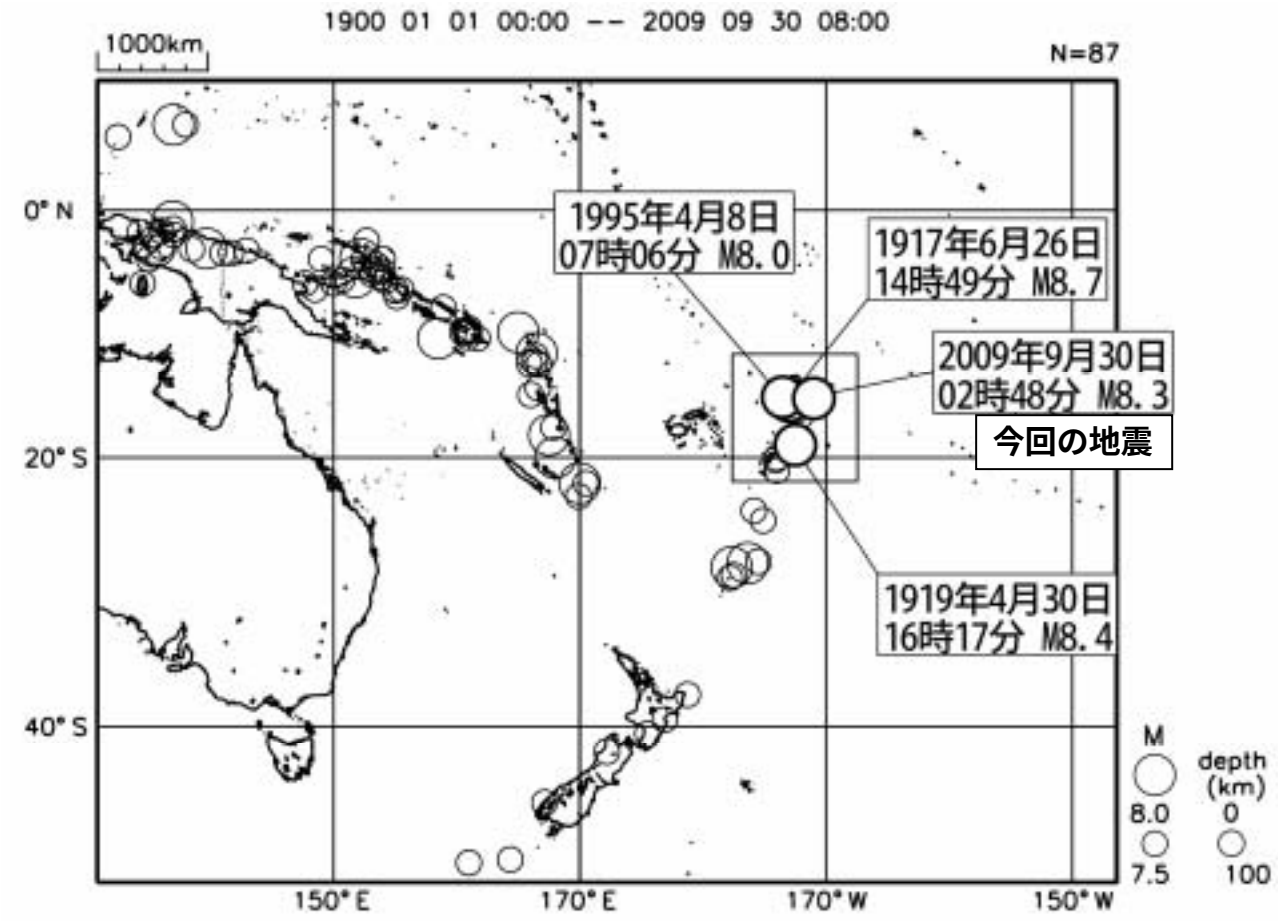


海）は海上保安庁所属の検潮所、無印 は気象庁所属の検潮所を示す。

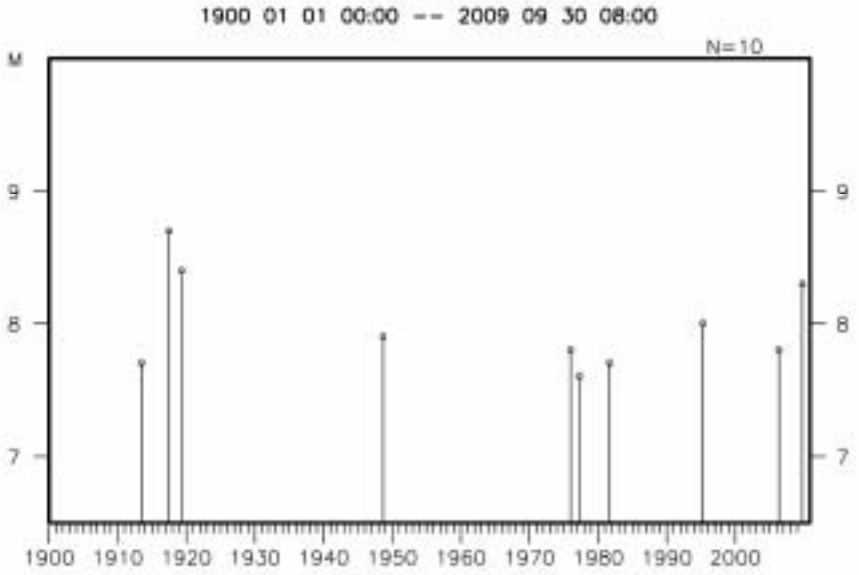


太平洋
100°E
120°E
140°E
160°E
180°
160°W
140°W
120°W
100°W
80°W
60°W
60°N
40°N
20°N
0°
20°S
40°S
60°S
ウスチカムチャツク
セベロクリリスク
D21415
D21416
D21414
アダク
ダッチハーバー
D46413
D46408
D46402
D46403
D46409
D46410
コディアク
D46404
アストリア
D46411
モンテレー
D21418
D21413
ミッドウェー
ターン
ホノルル
カフルイ
D51407
ヒロ
ソコロ
D43412
D43413
D32411
クォーリーベイ
シービ
D52404
D52401
ウェーク
スービック
マニラ
D52405
クイニョン
サイパン
ジョンストン
ヤップ
D52402
ブンタウ
レガスピ
ダバオ
マラカル
D52403
ポンペイ
マジュロ
カピンガマランギ
ベティオ
クリスマス
サンタクルス
ナウル
マヌス
カントン
フナフチ
ペンリン
D51406
ホニアラ
アピア
ラウトカ
パゴパゴ
カヤオ
スバ
D32412
D32401
イキケ
ポートビラ
ラロトンガ
リキテア
アントファガスタ
ヌクアロファ
今回の地震の震央
イースター
フアン
フェルナンデス
コキンボ
サンアントニオ
タルカワノ
ポートケンブラ
コラル
アンクド
プエルトモント
スプリングベイ
ジャクソンベイ
D55401
サンペドロ
プエルトウィリアムス
海外の潮位観測点
（アンダーラインは津波が観測された観測点）

2009 年 9 月 30 日　南太平洋の地震　（過去の活動）



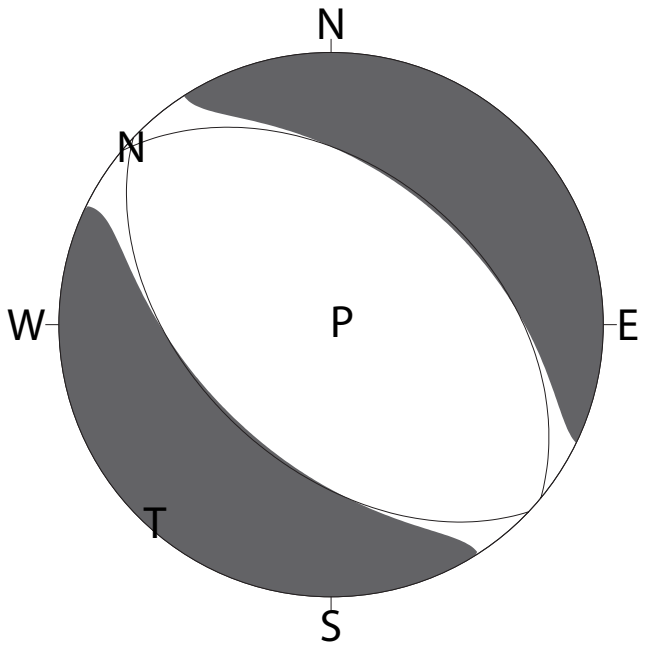
今回の地震と過去の地震の震央分布（震源データは宇津の世界の被害地震の表による）
1900 年 1 月～2009 年 9 月 30 日（M≧7.5、深さ 100㎞ 以浅）



上図矩形内における地震活動経過図

発震機構解［ＣＭＴ解］（暫定）

2009/09/30　02:48



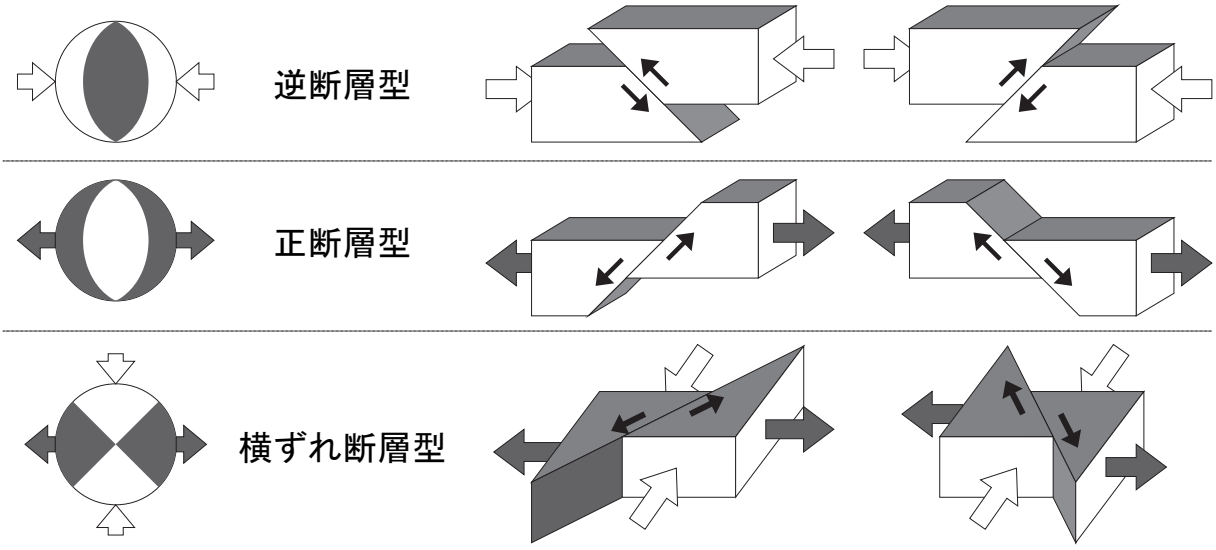
北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型

※　Ｐは圧力軸、Ｔは張力軸の方向を示す。（下半球等積投影）

発震機構解［ＣＭＴ解］について

地震波形には、地震時に働く力の特徴があらわれます。
また、地震時に働く力の向きは、断層の型により異なります。
ＣＭＴ解は、これらの性質を用いて地震波形から断層面を推定するものです。

以下に、発震機構解と断層の型の対応関係の典型的な例を示します。



解析には気象庁の他、IRIS-DMC、LISS、独）防災科学技術研究所のデータを使用

気象庁作成